



## 旅立ちの日に

～子供たちにとっての「有効温度」～

校長 吉満 ふくみ



技師の方が心を込めて育てた紫やピンクのサイネリアの花、白や黄色のマーガレットの花が咲き誇り、春の訪れを感じます。まるで安城の子供たちの卒業や進級をお祝いしてくれているようです。

多くの芽吹きをもたらす春を迎える度に、「植物は、蓄積温度が満ちて発芽する」という言葉が浮かんできます。この時期の気候は、三寒四温を繰り返し、植物にも動物にも春をもたらします。自然界の生き物たちは、個体の持つ「発育限界温度」を越す温度を「有効温度」として積算し、個体としての成長が促されると言われています。

私たち人間は、母親の胎内で見守られ誕生した後、親の庇護のもと（親が子供をかばい守って育てること）に成長し、誕生後の成長の見方はスピードから質へと変化していきます。子供たちは家庭から少しずつ範囲を拡げて、様々な人たちとの出会いを通して、社会に出ていく「ひとりだち」のための準備をしていきます。よって、子供たちにとって「有効温度」となり得るのは、様々な苦労とともに、多くの体験の場や自ら学ぶ場であり、その過程を経てこそ、子供たちの真の成長を促すと言えましょう。

子供たちは、どの子も「伸びる芽」をもっています。しかし、その芽は大人が無理に伸ばそうと思っても伸びるものではありません。その子供が自らその気になったことで芽生え、やる気を湧かしたせ、夢中になって取り組むことで大きく伸びていくのだと思います。その自分自身で伸びようとする気持ちを育てるのは、学校だけではできません。保護者や地域の皆様との互いに連携した教育力があってはじめてできることだと思います。

今年度は、コロナ禍を過ぎて、通常どおりの学校の教育活動への「リスタート（再始動）」の年でありました。保護者や地域の皆様の温かい御支援のおかげで、安城小の18人の子供たち全員が無事に進級・卒業をすることができました。

お世話になりましたすべての皆様に心から感謝申し上げます。ありがとうございました。



【心に彩りを与えるサイネリア】

ひこ

## ★全校朝会で「ブックトーク」をしました！★

3月6日（水）の全校朝会で、ブックトークを試してみました。ブックトークとは、一つのテーマに沿って、いろいろな本を幅広く紹介する手法のことです。「読み聞かせ」のように最初から最後まで全部読むのではなく、本のあらすじを紹介したり、本文を一部分読んだりして、聞き手（子供たち）に「おもしろそう」「この続きはどうなるんだろう」「読んでみたいなあ」という気持ちになってもらうことで、実際に本を読んでもらうことにつながります。今回のテーマは「ともだち」。1, 2年生が学習発表会で演じた「お手紙」の話が入っている「ふたりはともだち」（アーノルド・ローベル作）をスタートに、「ともだちや」（内田麟太郎作）、「ソラタとヒナタ」ともだちのつくりかた」（かんのゆうこ作）、「ともだちやもんな、ぼくら」（くすのきしげのり作）、「しんゆうだけど だいきらい」（石山さやか作）、「ともだち」（谷川俊太郎作）計6冊を紹介しました。



【花言葉：私を忘れないで】

1月20日（土）に行われた教育講演会で、東北大学の川島隆太教授が「子育てにおけるスマホと生活習慣」について講演され、脳が活性化する最良の方法は「読書」「音読」であり、「読書は脳の全身運動である。」と言われました。26日（火）から始まる春休みでも、子供たちがステキな本に出会ったり、教科書や本を声に出して読んだりする機会がたくさんあることを期待しています！